

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果から見た本荘小学校児童の姿

あわら市本荘小学校

児童生徒の学力を把握する目的で毎年実施されている全国学力・学習状況調査が、今年度も4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されました。この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校での教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的として実施されています。今年度は3年に1回実施される理科の調査も行われました。

今年度の調査の結果からわかる本校児童の概要をお知らせします。学校では、今回の結果をもとにさらなる教育活動の工夫と改善に取り組んでまいります。ご家庭におかれましても、分析結果を参考にいただき、生活習慣や学習習慣の改善にお役立てください。よろしくお願いいたします。

I 教科に関する調査結果

【国語・算数 平均正答率比較】

	国語	算数	理科
福井県との比較	○	○	○
全国との比較	○	○	○

全国や県平均と比較して、
・上回っている $\cdots 0 \leq \bigcirc$
・下回っている $\cdots \Delta < 0$

全体的にみると、国語・算数・理科すべてにおいて全国平均を上回る結果となりました。県平均と比べても国語・算数においては上回りました。学習内容の領域別にみると、国語では「言葉の特徴や使い方」「我が国の言語文化」「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」が良好でしたが、「情報の扱い方」に課題が見られました。算数ではすべての領域で良好でした。理科では「エネルギー」「生命」「地球」については良好でしたが、「粒子」に課題が見られました。問題形式別では、国語の「記述式」と理科の「短答式」以外は良好であることが分かりました。

- ・県・全国に比べ良好なこと…◎ 県・全国に比べ課題となること…▲ 結果をふまえて…□
- ・※印の項目の値は、肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）の合計
- ・グラフの単位は（％）

国 語

- ◎文章のまとまりをとらえ、文章の構成を考えたり、要旨を把握したりする力、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く力に優れています。
- ▲情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことに課題が見られました。
- ▲目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけることに課題が見られました。

算 数

- ◎基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述する力に優れています。
- ◎台形の意味や性質について理解する力、はかりの目盛りを読む力に優れています。
- ◎簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ力に優れています。
- ▲平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することに課題が見られました。

理 科

- ◎乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身についています。
- ◎電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現する力に優れています。

▲身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身についていないようです。

▲水が氷に変わる温度を根拠に、海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することに課題が見られました。

今回の結果を踏まえてこれから力を入れて取り組んでいくこと

国語

□自分が考えたことを、理由を添えて書く力をつけるため、単元の学習の最後に、物語の感想や筆者の考えについて自分が考えたことを書いたり、それを児童同士で読み合ったりする活動を積極的に取り入れていきます。

□図や挿絵から得られる情報を読み取る力をつけるため、低学年のうちから挿絵や図と文章を照らし合わせながら読む活動を積み上げていきます。

算数

□コンパスや分度器など、用具を使って作図する力を定着させるため、作図方法を丁寧に指導し、定期的に振り返って、作図する活動を取り入れていきます。

□学習したことを、日常の具体的な場面に対応させて理解することができるような活動を取り入れていきます。

□資料の読み取りの力をいろいろな場面で活用できるように、他教科の学習に繋げていきます。

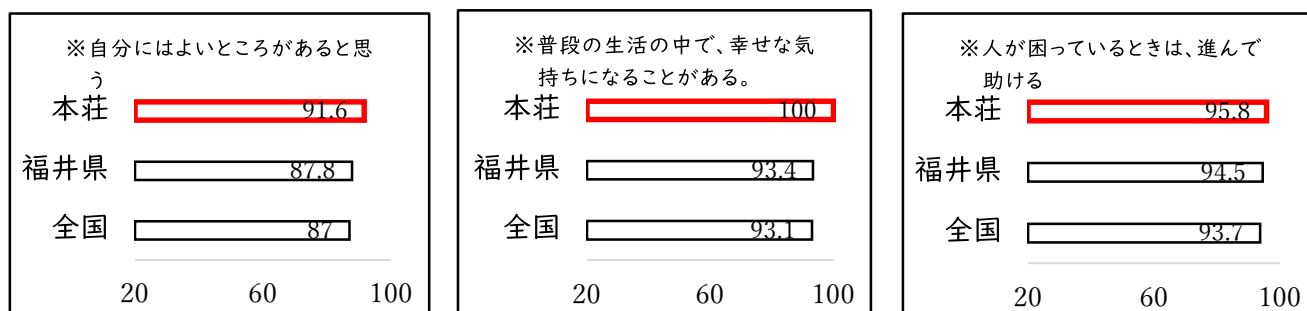
理科

□前学年までに学習した内容も、タブレットを利用したドリル学習等でくり返し復習する機会を取り入れていきます。

2 生活習慣や学習状況等に関する調査結果

全国学力調査では、「生活習慣や学習環境による質問紙調査」も併せて行われています。

○自分自身に関することについて

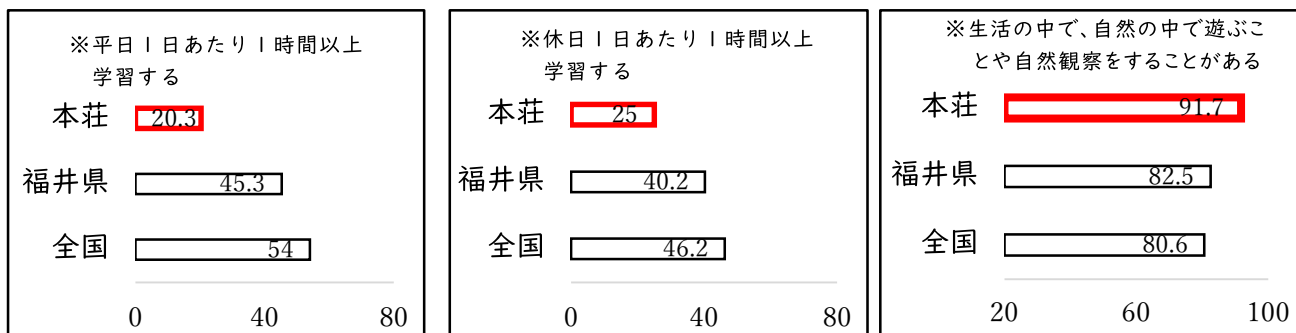


◎「自分にはよいところがある」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した児童の割合は、県・全国平均を上回っています。引き続き、自分のよいところを自分で認められる児童の育成を目指します。さらに、日常生活の中に幸せを感じることができる豊かな心を形成できるよう努めます。

◎「人が困っているときは、進んで助ける」と回答した児童の割合は、県・全国平均を上回っています。困っている人を進んで助けようとする思いやりの心が育ちつつあるのが分かります。

□今後も、ポジティブ教育を推進しながら、児童一人一人を誉め認めることで、児童自らが自分の良さを理解し、自己肯定感や自己有用感が高まる取組をさらに進めていきます。そして、自分だけでなく他者も大切に、互いに支え合いながら幸せに生きていける児童の育成を目指していきます。

○家庭での様子について

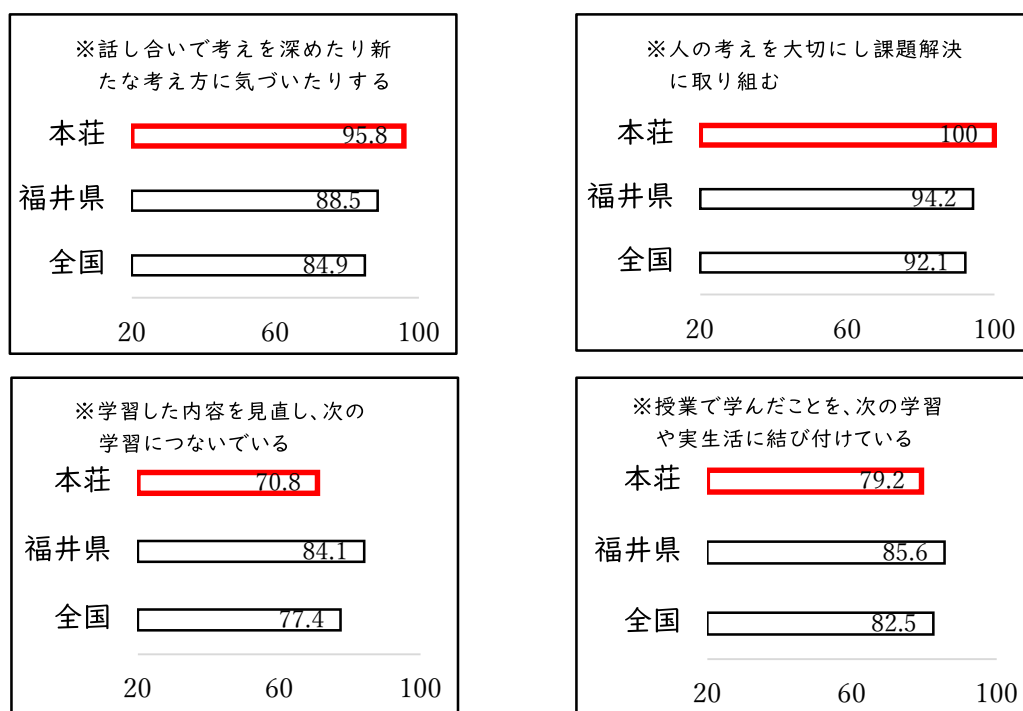


◎「生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある」と回答した児童が、県・全国平均を上回っています。自然に親しみながら、豊かな心が育まれていることがわかります。

▲「平日1日あたりの学習時間が1時間以上」「休日1日あたり1時間以上学習する」と回答した児童の割合は、どちらとも県・全国平均を下回っています。休日に「全くしない」と答えた児童も3割程度いるなど、家庭での学習時間が少ないことがわかりました。

□自ら計画を立て、進んで学習に取り組める児童の育成を目指し、引き続き学習に応じて課題の出し方を工夫したり、自主学習の習慣が身につくよう、様々な学習の方法を提示したりしていきます。

学級での様子について



◎「話し合いで考えを深めたり新たな考えに気づいたりする」「人の考えを大切に課題解決に取り組んでいる」と回答した児童の割合は、県・全国平均を上回っています。話し合いを通して、互いの意見を受け入れ合い、学び合っていることがわかります。

▲「学習した内容を見直し、次の学習につなげている」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けている」と回答した児童が、県・全国平均を下回っています。

□引き続き、学級での話し合い活動の機会を確保し、自身の考えを安心して伝え、他者の考えを大切にできる学級づくりに努めます。また、各教科で学習したことを、次の学習や日常生活にいかせるよう、学習と生活のつながりを大切にしながら学習を進められるように努めていきます。